



スポーツエールカンパニー パラスポーツ部門2026

認定団体 事例集

はじめに

東京2020パラリンピック競技大会を契機として、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が高まりました。一方で、成人一般と比較して障害のある方のスポーツ実施状況は依然として低い水準にあり、障害のある方特有のスポーツ実施に係る障壁の解消や、スポーツ施策の実施体制の充実が求められています。

また、障害のない方においてもパラスポーツを体験したことのある割合は高いとはいえず、障害のある方とない方がともにスポーツを楽しむ、ユニバーサルかつインクルーシブなスポーツ環境の整備が必要とされています。

このような状況を踏まえ、スポーツ庁では、障害のある方とない方が身近な場所でともにスポーツを実施できる環境の整備を推進するため、パラスポーツ団体、地方公共団体、民間企業等の関係団体による連携体制の構築を重視しています。

こうした考えのもと、「スポーツエールカンパニー」認定制度において、パラスポーツ団体と連携した取組を評価し、その取組を一層広めることを目的として、「スポーツエールカンパニー パラスポーツ部門」を創設しました。

本制度では、パラスポーツ団体と民間企業・地方公共団体等が連携して取り組んだ事例であり、かつ他団体のモデルとなり得る優良な取組を認定しています。

本事例集では、認定団体による多様な連携事例を紹介することで、パラスポーツの裾野拡大や、障害への理解促進、さらには新たな連携の創出につなげていくことを目指します。

目次

民間企業	イオン株式会社	「イオン de パラスポ」パラスポーツ体験イベントの全国展開	4
	ハンズホールディングス株式会社	ハンズホールディングスCUP	5
	株式会社マルハン	①電動車いすサッカーを通じた普及活動 ②障害のある子どもたちの次世代育成に向けた取組	6
	三井住友海上火災保険株式会社	現役アスリートのイベント参加を通じた社会貢献活動とパラスポーツ認知度向上取組	7
	三井住友海上あいおい生命保険株式会社	日本パラクライミング協会や「TOKYOパラクラ23」との連携による パラクライミングの普及・振興活動	8
	スカイライトコンサルティング株式会社	ブラインドサッカーのアセットを活用したオープンイノベーションプラットフォーム (VISI-ONE Innovation Hub)の立ち上げ・運営	9
	太陽スポーツ施設株式会社	デフスケートボード体験会	10
	コナミスポーツ株式会社	①杉並区公共スポーツ施設でのさまざまな活動(杉並区大宮前体育館/東京都) ②障害のあるスポーツ選手を招いてのパラスポーツの普及活動の実施	11
	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	公益財団法人日本パラスポーツ協会との連携	12
	日本ガイシ株式会社	車いすテニス支援	13
	株式会社COSPAウエルネス	神戸市障害者スポーツ大会 大会運営補助業務	14
	株式会社ダイセル	ブラインドサッカー普及×ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進活動	15
	株式会社グロップサンセリテ	パラスポーツ実業団チーム「GROP SINCERITE WORLD-AC」の運営	16
地方公共団体	久喜市	パラスポーツからユニバーサルスポーツへ ~誰もが交わる久喜モデル~	17
	江戸川区	①第78回春季江戸川区民大会EDOオープン フェンシング大会の開催 ②パラスポーツ一般公開の実施	18
	静岡市	ウォーキングフットボール大会&ユニバーサルスポーツ体験会の開催	19
	東大阪市	ウィルチェアスポーツ普及推進事業	20
その他団体	特定非営利活動法人スマイルクラブ	パラスポーツ出前授業	21
	一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク	①パラネット主催「パラスポーツをもっと身近に感じよう！パラスポーツ体験会」 ②パラネット主催「賛助会員研修ツアー in 別府・飯塚」	22
	特定非営利活動法人ParaNori	パラスポーツ用具の循環と練習支援による国際連携(カンボジア)	23
	一般社団法人アンリミテッド事業推進協会	アンリミテッドスポーツフェスティバル開催	24
	徳島県パラスポーツ協会	①パラスポーツ推進プロジェクト(特別な支援を必要とする児童・生徒の体育的活動への人材派遣) ②とくしまパラスポーツフェスティバル	25

団体名

イオン株式会社

所在地

千葉県千葉市



取組事例名 「イオンdeパラスポ」 パラスポーツ体験イベントの全国展開

<取組内容>

全国のイオン施設を活用しパラスポーツを楽しく体験できる「イオンdeパラスポ」を開催

■パラスポーツ体験イベントの全国展開

全国のイオン施設を活用し、「イオンdeパラスポ」を開催。

- 2025年9月23日、イオンモール豊川(愛知県)において、ボッチャ・ゴールボール体験会やパラアスリートによるトークショーを実施。日本パラスポーツ協会と共催し、日本ゴールボール協会、日本ボッチャ協会等の協力のもと開催した。
- 商業施設を活用した体験イベントを通じて、来場者が気軽にパラスポーツに触れられる機会を創出し、パラスポーツの理解促進と普及につなげている。

■標準プログラムによる全国展開

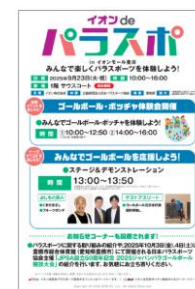
「イオンdeパラスポ」は、標準プログラムを策定し、地域やニーズに応じて内容を組み替えながら各地で展開。

- ボッチャ体験会は社内の社会福祉基金の活動として、従業員がボランティアとして参画する取組として体系化。
- 全国のイオン施設を活用したパラスポーツ体験イベントとして展開しており、2025年度は全国46カ所で開催し、総数12,000人が参加した。

「イオンdeパラスポ」の紹介



告知物の例



配付物の例



<主な連携先>

公益財団法人日本パラスポーツ協会
 一般社団法人日本ゴールボール協会
 一般社団法人日本ボッチャ協会
 地域の競技団体 等

<汎用性>

標準プログラムを策定すること、地域や連携団体に応じた内容に組み替えながら各地で展開できる。また、従業員ボランティアが参画する体制を整えることで、全国の施設を活用した体験イベントとして展開可能である。

団体名

ハンズホールディングス株式会社

所在地

東京都千代田区



取組事例名

ハンズホールディングスCUP

<取組内容>

知的障がい者ソフトボール大会「ハンズホールディングスCUP」を通じ、障がい者スポーツの発展と共生社会の実現を目指す

■ハンズホールディングスCUPの実施

2024年より大会を毎年開催し、2026年には初の全国大会を実施。

- 日本知的障がい者ソフトボール連盟と協働し、知的障がいのある選手のための大会を企画・運営。競技団体がルールやチーム調整など競技面を担い、企業がスポンサー募集や広報、運営体制の整備を担うなど、双方の強みを生かした大会運営を実施している。
- 2024年には宮城県仙台市で東日本大会を開催。トップアスリートによるクリニックや始球式も実施し、競技を通じた交流や共生の場を創出するとともに、テレビ番組での特集放映を通じて知的障害者スポーツの魅力を広く発信した。

ハンズホールディングスCUPのチラシ



メディア事例：ミヤギテレビ

『OH！バンデス』にて約15分間の特集



大会の様子



<主な連携先>

日本知的障がい者ソフトボール連盟

<汎用性>

競技団体と企業が役割分担して大会を運営する体制や、運営マニュアルの整備、協賛募集やクラウドファンディングを活用した資金調達の仕組みにより、他の競技団体や企業、自治体でも展開しやすいモデルとなっている。

団体名

株式会社マルハン

所在地

東京都千代田区



取組事例名

- ① 電動車いすサッカーを通じたパラスポーツの普及活動
- ② 障害のある子どもたちの次世代育成に向けた取組

<取組内容>

企業所属のパラスリートが講演や体験授業等を通じ、競技普及やパラスポーツの理解促進に努める

■ 電動車いすサッカーを通じたパラスポーツの普及活動(取組事例①)

企業所属のパラスリートの競技活動や発信を通じたパラスポーツの普及と理解促進の取組。

- ・ 国内外の大会出場に加え、講演や体験会、メディアを通じて競技の魅力を発信し、認知度向上に寄与。
- ・ 地域での体験機会の創出や若手選手の育成に関わり、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しめる環境づくりを推進。

取組事例①



■ 障害のある子どもたちの次世代育成に向けた取組(取組事例②)

パラスリートが競技団体等と連携した、障害のある子どもたちの育成や競技参加の機会創出の取組。

- ・ 公益財団法人日本障害者スキー連盟等と連携し、合宿帯同や指導を通じて次世代選手の育成を支援。
- ・ 次世代選手に対する大会参加支援などを通じて、競技機会の創出とスポーツ参加の裾野拡大に寄与。

取組事例②



<主な連携先>

<取組事例①> 一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

<取組事例②> 公益財団法人日本障害者スキー連盟

<汎用性>

パラスリートによる講演や体験会、育成支援を組み合わせた取組は、競技普及と人材育成を同時に推進できるモデルとして、企業・自治体・教育機関等でも展開可能である。

団体名

三井住友海上火災保険株式会社

所在地

東京都千代田区



SPORTS
YELL
COMPANY
2026
パラスポーツ部門

取組事例名

現役アスリートのイベント参加を通じた社会貢献活動とパラスポーツ認知度向上取組

<取組内容>

パラアスリートが中心となり自治体や社内等で、共生社会の実現へ向けた、障がい理解やパラスポーツ認知度向上・健康増進の取組を実施

■現役パラアスリートによる取組

全国各地でパラスポーツの魅力発信やパラスポーツ体験会を実施。

- 現役パラアスリートが学校や自治体、日本各地のスポーツイベントに参加し、トークショーやアイマスク・ガイド体験、走り方教室などを通じてブラインドマラソンをはじめとするパラスポーツの魅力を発信。大会ボランティア向けイベントなどにも登壇し、パラアスリートの視点から適切なサポート方法を伝えるなど、競技特性や障がいへの理解促進に取り組んでいる。
- 社内向け体験会やトークセッション・ストレッチ教室などを実施し、パラスポーツを通じた社員の健康増進やDE&I理解の促進に取り組んでいる。
- 地域のブラインドマラソンクラブや伴走者と連携し、練習会を実施したり、伴走体験の機会創出などを通じてパラスポーツの盛り上げや競技の認知度向上にも貢献している。

日本各地のスポーツイベントに参加



<主な連携先>

特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会
大濠公園ブラインドランナーズクラブ
各地の自治体・イベント事務局(滋賀県・下関市・田村市・福岡市など)
各地のブラインドランニングクラブ(沖縄・大阪・東京など)

<汎用性>

アスリートが学校や地域イベント、社内活動に参加することで、パラスポーツの認知度向上や障がい理解の促進につながる取組として各地域で展開可能である。また、社員や地域団体が活動に参画することでノウハウの共有や理解の広がりにつながり、継続的な普及活動につなげることができる。

団体名

三井住友海上あいおい生命保険株式会社

所在地

東京都中央区

取組事例名

日本パラクライミング協会や「TOKYOパラクラ23」との連携による
パラクライミングの普及・振興活動



<取組内容>

選手と一緒にを行う体験型イベントや競技団体への協賛等を通じたパラスポーツ普及活動を実施

■クライミング体験会の定期開催

障害のある方や幅広い世代の方々にパラクライミングの体験機会を提供。

- ・ 江東区深川スポーツセンター等でパラクライミング体験会を開催し、障害のある方や子どもを含む幅広い参加者に競技体験の機会を提供。選手やサイトガイドとともに実施することで、挑戦する楽しさや可能性を伝えている。

■地域社会やパラアスリートと連携した取組を実施

- ・ 地域住民との交流イベントや講演活動を通じて、障害者の挑戦や可能性を発信し、多様性や包摂性への理解促進に取り組んでいる。
- ・ 2019年よりパラクライミング選手が正社員として勤務しており、現役選手の知見を生かしたパラクライミングの普及や振興活動を行っている。



©一般社団法人日本パラクライミング協会

<主な連携先>

一般社団法人日本パラクライミング協会
TOKYOパラクラ23

<汎用性>

企業がパラスポーツ団体やアスリートと連携し、体験会や講演等を実施することで、地域や社員に対するパラスポーツの理解促進や普及活動として展開することが可能。また、企業のCSR活動や地域連携の取組としても取り入れやすく、他企業においても実施しやすいモデルと考えられる。

団体名

スカイライトコンサルティング株式会社

所在地

東京都港区

取組事例名

ブラインドサッカーのアセットを活用したオープンイノベーションプラットフォーム
(VISI-ONE Innovation Hub)の立ち上げ・運営

<取組内容>

視覚課題解決の共創プラットフォーム『VISI-ONE Innovation Hub』をパラスポーツ団体と共同で 発足

『VISI-ONE Innovation Hub』ホームページ

■VISI-ONE Innovation Hubの立ち上げ・運営

ブラインドサッカーの理念やネットワークを活用し、視覚課題の解決を目指す

- ・ 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会や一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション等と連携し、視覚課題の解決に向けた企業・研究機関・団体の共創プラットフォームを構築し、事務局として企画・運営を行っている。
- ・ ブラインドサッカーの国際大会と連動したカンファレンスや各種イベントを開催し、スポンサー企業や関係団体、観客等が集まる場を活用して、視覚課題や社会課題に関するイノベーション創出の機会を提供している。
- ・ 会員企業や研究機関のプロジェクト支援やネットワーキング支援を通じて、パラスポーツ団体や当事者と連携した実証活動や共創の取組を推進している。

※ 視覚課題・・・視覚にまつわる、機能的、能力的、社会的な課題の総称



出会いを作り、
視覚課題にイノベーションを。



<主な連携先>

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
一般財団法人インターナショナル・ブラインドフットボール・ファウンデーション

<汎用性>

パラスポーツの大会や競技団体が持つネットワークを基盤に、社会課題とビジネス領域を掛け合わせた共創の場を構築することで、パラスポーツを起点として生まれる新たな連携やイノベーションの創出の取組は、他分野へも広く応用・展開可能である。

太陽スポーツ施設株式会社

団体名

所在地

東京都港区



取組事例名

デフスケートボード体験会

<取組内容>

日本最大級の公共スケートパークを活用し、デフスケートボード体験会を開催

■デフスケートボード体験会

聴覚障害者を含む参加者にスポーツ体験の機会を提供

- 指定管理者を務める戸吹スポーツ公園のスケートパーク「プラネットパーク」において、日本デフスケートボード協会と共催で体験会を実施。未経験者向けの体験プログラムや経験者への施設開放を行い、幅広い参加者がスケートボードを楽しめる機会を創出した。
- イベントでは手話通訳者を配置し、参加者との円滑なコミュニケーション環境を整備。聴覚障害の有無にかかわらず利用者同士が交流し、成功した技を互いに喜び合うなど、スポーツを通じた新たな交流の場となった。
- 本取組を契機に、日本デフスケートボード協会との連携を継続し、今後は公園内の他のスポーツ施設も活用しながら、障害者の運動機会創出やスポーツ参加の促進に取り組んでいく。



<主な連携先>

日本デフスケートボード協会

<汎用性>

公共スポーツ施設と競技団体が連携し、体験会を実施することで、特別な設備を必要とせず障害のある方のスポーツ参加機会を創出する取組として、他の施設や競技でも展開可能である。

コナミスポーツ株式会社

団体名

所在地

東京都品川区



取組事例名

- ① 杉並区公共スポーツ施設でのさまざまな活動(杉並区大宮前体育館/東京都)
- ② 障害のあるスポーツ選手を招いてのパラスポーツの普及活動の実施

<取組内容>

障害のある方のスポーツ施設利用拡大を目的とした環境作りや、インクルーシブスポーツ体験会の実施

■杉並区公共スポーツ施設での活動(取組事例①)

公共スポーツ施設において、障害のある方のスポーツ施設利用拡大を目的とした環境整備やインクルーシブスポーツ活動の実施。

- ・ 東京都障害者スポーツ協会の利用促進アドバイザー事業を活用し、障害者向け情報を掲載した施設ホームページの整備や館内案内図の改善など、施設のハード・ソフト両面での環境整備を実施。
- ・ 地域団体と連携し、月1回のモルック大会などインクルーシブスポーツイベントを開催。障害の有無や年齢を問わず参加できる地域交流型のスポーツ活動として定着している。
- ・ 地域の福祉事業所や自治体と協働し、作品展覧会や共生社会に関する取組への参画などを通じて、スポーツ施設を拠点とした地域共生の取組を推進。

杉並区スポーツ施設



■パラスポーツとデフスポーツの普及活動の実施(取組事例②)

障害のあるアスリートを招いた体験会や講演を開催し、パラスポーツの理解促進と普及への取組。

- ・ 自治体スポーツ施設と連携し、パラ卓球やブラインドサッカーなどの体験イベントを実施。小中学生を中心とした参加者に、パラスポーツを身近に感じる機会を提供。
- ・ 東京都デフバスケットボール協会の協力のもと、デフスポーツ体験会を開催し、講義や競技体験を通じてデフスポーツの理解促進を図っている。
- ・ 車いすバスケットボールやボッチャ、ゴールボールなど複数競技の体験会やトークイベントを開催し、パラアスリートの経験や競技の魅力を発信。

デフバスケットボール



<主な連携先>

- <取組事例①> 東京都障害者スポーツ協会
- <取組事例②> 一般社団法人東京都デフバスケットボール協会
一般社団法人センターポール

<汎用性>

スポーツ施設を基点として自治体や障害者団体等と連携し、施設環境の整備やパラアスリートを招いた体験会・講演等を実施することで、インクルーシブスポーツの推進やパラスポーツ普及の取組として他地域でも展開可能である。

団体名

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

所在地

東京都渋谷区

取組事例名

公益財団法人日本パラスポーツ協会との連携



<取組内容>

「みて・感じて・考える」をスローガンにパラスポーツ支援を実施

■パラ競技大会への社員応援団の派遣

2016年度より毎年、パラ競技大会に社員応援団を派遣。

- 日本パラスポーツ協会主催のジャパンパラ競技大会では、2025年度に水泳競技大会および陸上競技大会に応援団を派遣。また、当社役員がメダルプレゼンターとして登壇した。
- 日本パラ水泳連盟、日本パラ陸上競技連盟、日本車いすバスケットボール連盟主催大会にも応援団を派遣。協賛団体が主催する大会や、当社所属アスリートが出場する大会を対象としている。

■所属アスリートによる寄附および寄贈式の実施

2022年度より当社所属アスリートによるパラスポーツ団体への継続的な寄附を実施。

- 当社所属の女子プロゴルファー菅沼菜々選手が、2022年度より公益財団法人日本パラスポーツ協会へ賞金の一部を継続的に寄附し、贈呈式を当社にて実施。
- 2024年度は河合純一氏(当時同協会常務理事)とのトークセッションを開催し、100名以上の社員が参加した。

2025ジャパンパラ水泳競技大会の応援の様子



2026年寄附寄贈式の様子(菅沼プロ・JPSA森会長)



<主な連携先>

- 一般社団法人日本パラ水泳連盟
- 一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
- 一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

<汎用性>

パラスポーツ団体と連携し、大会への社員参加や所属アスリートの活動を組み合わせる形は、他企業においても参考となり得る。

団体名

日本ガイシ株式会社 2026年4月1日、NGK株式会社へ社名変更

所在地

愛知県名古屋市



取組事例名

車いすテニス支援

<取組内容>

車いすテニス支援を通じ地域や関係機関と連携して、挑戦や努力する人を応援

■車いすテニス支援

車いすテニス支援を通じてパラスポーツの普及や選手の活動を支援。

- 諸の木テニス倶楽部のバリアフリー化やテニスコートの整備を行い、車いすテニス選手や愛好家が利用できる練習環境を提供。
- 日本車いすテニス協会とオフィシャルサポーター契約を締結するとともに、社会福祉法人名古屋市障害者スポーツセンター等を運営する名古屋市総合リハビリテーション事業団と連携した体験会に協力するなど、地域や競技団体と連携した普及活動を実施している。
- 愛知県を拠点に活動する車いすテニス選手6名を支援し、競技活動を通じて挑戦するアスリートを応援している。

諸の木テニス倶楽部での車いすテニス体験会



<主な連携先>

一般社団法人日本車いすテニス協会
社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団

<汎用性>

企業が競技団体や地域の福祉機関と連携し、スポーツ施設の提供や体験会等の実施、選手支援を行うことで、パラスポーツの普及や共生社会の理解促進につながる取組として展開可能である。

団体名

株式会社COSPAウエルネス

所在地

大阪府大阪市

取組事例名

神戸市障害者スポーツ大会 大会補助業務



<取組概要>

パラスポーツ指導員を派遣し、知識と経験を有する人材が競技運営を支援している。

■神戸市障害者スポーツ大会運営補助業務

パラスポーツ指導者を活用した大会運営の実施。

- 神戸市障害者スポーツ大会のフライングディスク協議において運営補助業務を担い、公認パラスポーツ指導者資格を持つスタッフを配置することで、競技振興の円滑化および安全管理の強化を図っている。
- 本大会は兵庫障害者フライングディスク協会の主管により開催されており、「しあわせの村」を会場として、競技団体や福祉関係機関と連携しながら大会運営に携わっている。
- 競技特性や障害特性を理解した人材が運営にかかわることで、参加者が落ち着いて競技に集中できる環境づくりに寄与している。



<主な連携先>

兵庫障害者フライングディスク協会
社会福祉法人神戸市社会福祉協議会

<汎用性> (他のモデルとなり同じような取組を展開しやすい点)

専門資格を有する人材を配置する仕組みは、障害者スポーツをはじめとした各種スポーツ大会や地域イベントにおいても応用が可能であり、運営の質向上につながるモデルとして活用できる。

株式会社ダイセル

所在地

大阪府大阪市



取組事例名

ブラインドサッカー普及×ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進活動

<取組内容>

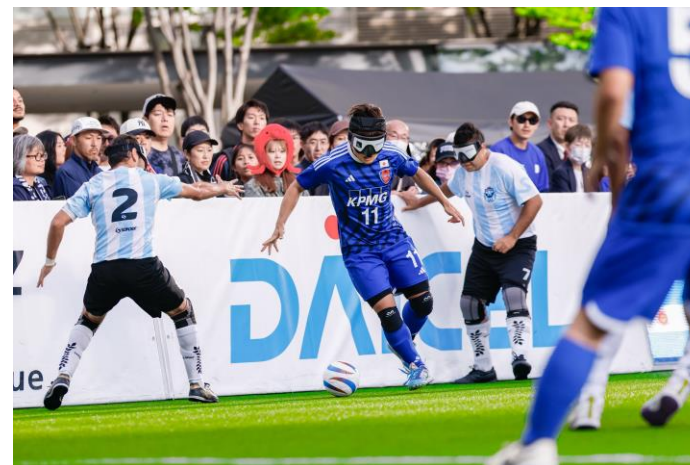
ブラインドサッカーの普及に向け、選手の雇用や宿泊施設の提供、社員の大会運営参加を実施

■ブラインドサッカー普及×ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進活動

日本代表選手の雇用や宿泊施設の提供、大会運営支援などを通じてブラインドサッカーの普及とDE&I推進。

- 2023年5月に日本ブラインドサッカー協会とパートナー契約を締結し、日本代表や育成カテゴリーの活動を支援。
- 研修施設に隣接する公共サッカー場を強化拠点として活用する際には、宿泊施設を提供するなど、代表チームの合宿環境の整備に協力。
- 代表選手の雇用や社内研修、地域向けイベントへの参加を通じて、社員や地域社会に向けたブラインドサッカーの普及・理解促進を図っている。
- 2024年および2025年には、大阪・グランフロント大阪「うめきた広場」で開催された国際大会においてタイトルスポンサーを務め、多くの社員がボランティアとして大会運営に参加するなど、パラスポーツの魅力を発信する機会を創出した。

ダイセル ブラインドサッカー日本カップ



©Haruo.Wanibe/JBFA

<主な連携先>

特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

<汎用性>

パラスポーツ団体とのパートナーシップを通じて、選手雇用、施設提供、大会支援、社員参加など複数の取組を組み合わせることで、企業のDE&I推進とパラスポーツ普及を同時に進めるモデルとして他企業でも展開可能である。

団体名

株式会社グロップサンセリテ

所在地

岡山県岡山市



取組事例名

パラスポーツ実業団チーム「GROP SINCERITE WORLD-AC」の運営

<取組内容>

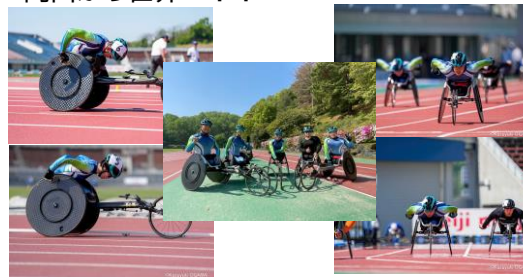
パラスポーツチームを運営し、選手の育成・雇用やパラスポーツの体験会・講演会を実施

■「GROP SINCERITE WORLD-AC」の運営

パラスポーツ実業団チーム「GROP SINCERITE WORLD-AC」を運営し、選手の育成・雇用、パラスポーツの普及。

- 車いす陸上を中心としたトップチームでは、世界で活躍するアスリートの育成を目指すとともに、選手の雇用を通じて競技活動を支援。
- 一般社団法人日本パラ陸上競技連盟と連携し、選手派遣や強化育成スタッフの派遣、合宿会場の提供などを通じて競技力向上を支援。
- 岡山県身体障害者陸上競技連盟、自治体、学校、スポンサー企業と連携し、車いす陸上の体験会や講演会を実施するなど、地域や企業と協働した普及活動を展開している。

岡山から世界へ！！



体験会・講演会など普及活動



令和7年度 次世代アスリート強化事業 第1回合宿(岡山)



<主な連携先>

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
岡山県身体障害者陸上競技連盟
岡山県、岡山市、パラスポーツ実業団チームのスポンサー企業

<汎用性>

パラスポーツ実業団チームの運営を通じて、選手の雇用や競技活動の支援に加え、体験会や講演会などの普及活動を組み合わせることで、企業活動とパラスポーツ支援を両立するモデルとして他企業でも展開可能である。

団体名

久喜市

所在地

埼玉県久喜市



取組事例名

パラスポーツからユニバーサルスポーツへ ～誰もが交わる久喜モデル～

<取組内容>

パラスポーツ団体や障害者交流センターと連携し、ユニファイドスポーツ体験の場を提供

■パラスポーツからユニバーサルスポーツへ — 誰もが交わる久喜モデル
知的障害者と健常者が共に参加するユニファイドスポーツ体験の場の提供。

- 毎年開催しているスポーツイベント「健幸・スポーツフェスタ」において、スペシャルオリンピックス日本・埼玉、埼玉県フロアボール連盟、埼玉県障害者交流センター、日本ウォーキングフットボール連盟などと連携し、パラスポーツ体験の機会を提供。
- 知的障害者と健常者が共にプレーするユニファイドスポーツを通じて、障害の有無に関わらず交流できるスポーツ環境づくりを進めている。
- 市は各団体間の調整や広報、会場確保、安全管理などを担い、競技団体、福祉機関、行政が横断的に連携した共生型スポーツ事業を推進。
- 2024年度にはピックルボール日本連盟の協力により新たな競技「ピックルボール」を導入し、商業施設での体験会も実施するなど、幅広い市民が参加できる交流の場づくりを進めている。



<主な連携先>

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本・埼玉
ピックルボール日本連盟
日本ウォーキングフットボール連盟
埼玉県フロアボール連盟、埼玉県障害者交流センター

<汎用性>

体育館や地域施設など既存の環境で実施可能なユニバーサルスポーツを活用し、競技団体、福祉機関、行政が連携することで、障害の有無にかかわらず多様な市民が参加できる共生型スポーツ事業として他地域でも展開可能である。

団体名

江戸川区

所在地

東京都江戸川区



取組事例名

- ①第78回春季江戸川区民大会EDOオープン フェンシング大会の開催
- ②パラスポーツ一般公開の実施

<取組内容>

区民へのパラスポーツ普及として、パラスポーツを取り入れた教室、体験会、大会の実施

■区民大会における「シッティング部門」の新設（取組事例①）

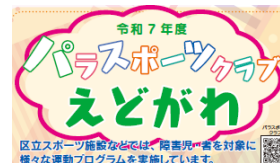
車いすフェンシングの特性を生かし、健常者と障害のある方がともに参加できる大会の実施。

- 江戸川区フェンシング区民大会に「シッティング部門」を新設。江戸川区フェンシング協会と日本パラフェンシング協会が主管となり、大会を実施した。
- フェンシング部門とシッティング部門への同時エントリーを可能としたことで、障害の有無にかかわらず、選手が真剣勝負を繰り広げる場面も生まれた。

■パラスポーツ一般公開の実施（取組事例②）

区立スポーツ施設にて、パラスポーツ4競技の一般公開を実施。

- ブラインドサッカー®、シッティングバレーボール、ゴールボール、車いすバスケットボールを体験、見学できる場を創出。
- 競技団体や選手がレクチャーするため、未経験者が安心して体験できるだけでなく、練習場所の確保にもつながり、競技の普及・啓発にも寄与している。



シッティングバレーボールの様子



第78回春季江戸川区民大会EDO OPENフェンシング大会のチラシ

2025 EDO OPEN Fencing Match

第78回春季江戸川区民大会 EDO OPENフェンシング大会
会場：江戸川区総合体育館 主競技場

2025 6/1 SUN

午前9時30分 最終コール
●小学生フルーレ男女MIXの部
●シッティングフェンシングの部
※いずれもフルーレ
※シッティングフェンシングと一般の部のダブルエントリー可能

午後12時30分 最終コール
フルーレ：●一般男子の部 ●一般女子の部
エペ：●一般男子の部 ●一般女子の部
※一般の部は年齢制限なし

参加費：4,000円
※ダブルエントリーしても参加費は同じです

EDO OPENとは
EDO OPENは、小学生フルーレ・一般フルーレ・一般エペのフェンシングの試合と昨年好評だったシッティングフェンシングも開催！シッティングフェンシングは車いすのパラフェンサーと一般フェンサーが同じピストで一緒に戦える「パラフリーな大会」です。

主催：江戸川区・江戸川区民大会（一社）日本パラフェンシング協会
共催：全協・全日付 フェンシングスターホームページ
http://www.fencing-star.jp/

<主な連携先>

- <取組事例①> 一般社団法人日本パラフェンシング協会
- <取組事例②> 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会
東京都シッティングバレーボール協会

<汎用性>

新たにパラスポーツ大会を単独で開催することは負担が大きいが、既存の大会にパラスポーツ部門や障害者部門を組み込む形であれば実施しやすい。また、地方自治体は公営スポーツ施設を持っているため、それらを利用することで、一般公開は開始しやすい。

団体名

静岡市

所在地

静岡県静岡市



取組事例名

ウォーキングフットボール大会&ユニバーサルスポーツ体験会の開催

<取組内容>

企業所有のパラスポーツ優先施設を活用し、ウォーキングフットボール大会やユニバーサルスポーツ体験会を実施

■ウォーキングフットボール大会&ユニバーサルスポーツ体験会の開催

静岡市では、清水区庵原地区を年齢・性別・障害の有無にかかわらず多様な人がスポーツに親しめる「ユニバーサルスポーツの聖地」を目指す、拠点化の推進。

- 2025年10月13日、IAIパラスポーツパークにおいてウォーキングフットボール大会とユニバーサルスポーツ体験会を開催し、約350人が参加した。
- 大会は静岡市のほか、パラスポーツ団体、清水エスパルスなどのホームタウンチーム、地元企業等が連携して実施し、地域ボランティアが審判や運営補助として参加した。
- ユニバーサルスポーツ体験会では、スポーツ推進委員やパラスポーツ競技団体、企業と連携し、モルック、フライングディスク、卓球バレー、パラサイクルなど、障害の有無にかかわらず参加できるスポーツを体験する機会を提供した。
- 同じ会場に設置したマルシェでは障害福祉サービス事業所の商品販売も行い、スポーツを通じた地域交流と障害理解の促進につなげている。



ユニバーサルスポーツ体験会の様子

<主な連携先>

特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟、株式会社アイエイアイ株式会社静岡銀行、株式会社エスパルス、株式会社ジュビロ、静岡市スポーツ推進委員連絡協議会
特定非営利活動法人しずおかフライングディスク協会

<汎用性>

ウォーキングフットボールのように年齢や体力、障害の有無にかかわらず参加できるユニバーサルスポーツを活用することで、健康づくりや地域交流、障害理解の促進など多様な目的に応用できる取組として、地域イベントや自治体事業などで展開可能である。

団体名

東大阪市

所在地

大阪府東大阪市



取組事例名

ウィルチェアスポーツ普及推進事業

<取組内容>

日本初の屋外型車いすスポーツ専用施設を活用し、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめる共生社会の実現へ

■ウィルチェアスポーツ普及推進事業

東大阪市では、共生社会の実現を目指し、車いすスポーツの体験会や国際大会の開催、教育現場での出前授業などを通じたウィルチェアスポーツの普及啓発を行っています。

- 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会とパートナーシップ協定を締結し、車椅子ソフトボールの普及・振興を推進。
- 日本初の屋外型車いすスポーツ専用施設である「東大阪市立ウィルチェアスポーツコート」を拠点に、日本代表合宿や国際大会の開催、体験会の実施などを行っている。
- 車椅子ソフトボールの国際大会「ウィルチェアソフトボール HANAZONO CUP」を、市内で開催されるイベントと同日に開催することで、多くの来場者に車いすスポーツを体験する機会を提供。
- また、小学校への出前授業や体験授業を通じて、子どもたちが競技用車いすの操作を体験する機会を創出し、共生社会への理解促進につなげている。

小学生への体験授業



体験イベントの様子



<主な連携先>

一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会
日本生命保険相互会社

<汎用性>

大規模イベントとパラスポーツ大会や体験会を同時開催することで、これまで関心の薄かった層にも車いすスポーツを知ってもらう機会を創出できる。既存イベントや地域ネットワークを活用することで、認知度向上と地域活性化を同時に図る取組として他地域でも展開可能である。

団体名

特定非営利活動法人スマイルクラブ

所在地

千葉県柏市

取組事例名

パラスポーツ出前授業

<取組内容>

企業やパラスポーツ協会等と連携し、全国の小中学校でパラスポーツの出前授業を実施

■株式会社LIXILとの連携による出前授業の実施

企業と連携し、スポーツを通じて多様性を学ぶ体験型授業の全国展開。

- ・ 株式会社LIXILが実施する体験授業「ユニバーサル・ラン」と連携。
- ・ パラバドミントンや車いすバスケットボール等の出前授業を全国の小中学校で実施。

■山口県障害者スポーツ協会との連携による大会運営

地域のパラスポーツ団体と連携し、インクルーシブな大会を継続開催。

- ・ 毎年開催するパラバドミントン大会をインクルーシブ形式で実施。
- ・ 大会運営を通じ、障害の有無にかかわらず参加機会を創出。

■千葉県まちづくり公社との連携による体験機会の創出

地域の公益団体と連携し、障害児・者を対象としたスポーツ機会を提供。

- ・ 一般財団法人千葉県まちづくり公社と連携し、障害児・者を対象とした風船バレーなどのスポーツイベントを実施。
- ・ パラバドミントン体験会等を通じ、継続的な参加機会を創出。

LIXILとの連携によるパラバドミントン出前授業風景



インクルーシブ形式のパラバドミントン大会風景



<主な連携先>

株式会社LIXIL
山口県障害者スポーツ協会
一般財団法人千葉県まちづくり公社

<汎用性>

地域団体と連携し、障害児・者を対象としたスポーツイベントを実施。地域の関係団体が協働する形で取組を進めている。教育・福祉・スポーツ・地域振興を横断する連携の枠組は、他地域においても参考となり得る。

団体名 **一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク** 所在地 **東京都港区**

取組事例名 **①パラネット主催「パラスポーツをもっと身近に感じよう！パラスポーツ体験会」**
②パラネット主催「賛助会員研修ツアー in 別府・飯塚」

<取組内容>

パラスポーツ関係団体と連携した体験会、研修ツアーを開催し、賛助企業のパラスポーツに対する関心向上に寄与

■パラネット主催「パラスポーツをもっと身近に感じよう！パラスポーツ体験会」(取組事例①)

パラネット賛助会員企業・団体にパラスポーツの魅力を知り、体感してもらう機会として、ボッチャ、ブラインドフットボール、車いすラグビーの体験会を開催。

- パラスポーツ団体と連携し講師を招いて、競技概要の説明から実技体験までを実施。賛助会員の家族や友人も参加し、幅広い層がパラスポーツに触れる機会となった。
- 複数競技を一度に体験できる構成とすることで、参加者がパラスポーツ全体に関心を広げるきっかけを創出している。

■パラネット主催「賛助会員研修ツアー in 別府・飯塚」(取組事例②)

パラネット賛助会員企業・団体を対象に、日本のパラスポーツ発祥の地である太陽の家や飯塚国際車いすテニス大会を視察する研修ツアーの実施。

- 太陽の家と連携し、太陽ミュージアム、大分銀行太陽の家支店、オムロン太陽株式会社、サンストア、車いす体験ゾーンなどを巡る視察プログラムを実施した。
- あわせて、天皇杯・皇后杯第41回飯塚国際車いすテニス大会を視察し、パラスポーツの歴史や現場の取組、競技の魅力に触れる機会を提供している。



<主な連携先>

- <共通> パラネット賛助会員企業・団体
- <取組事例①> 日本ボッチャ協会、日本ブラインドサッカー協会、日本車いすラグビー連盟
- <取組事例②> 日本車いすテニス協会、社会福祉法人 太陽の家

<汎用性>

パラスポーツ団体が有する競技体験パッケージや、視察先で整備された研修プログラムを活用することで、企業や団体がパラスポーツへの理解を深める体験会・研修ツアーとして展開しやすいモデルである。

団体名

特定非営利活動法人ParaNori

所在地

東京都渋谷区



取組事例名

パラスポーツ用具の循環と練習支援による国際連携(カンボジア)

<取組内容>

日本国内のパラスポーツ用具の収集を行い、海外へ寄贈し、パラスポーツ実施を支援

■パラスポーツ用具の循環(再利用可能な車いすの活用)と練習支援による国際連携

パラスポーツ用具のリユース国際的な交流・支援。

- 日本の各パラスポーツ関連協会や連盟と連携し、国内で使用頻度の低くなった競技用車いすなどのパラスポーツ用具を回収し、再整備して再活用する仕組みを構築している。
- 国内の車いすバスケットボールチームの練習メニューを日英で整理し、教材として共有するなど、競技技術の普及につながる取組を進めている。
- パラスポーツ用具の再活用や練習支援の取組の一環として、カンボジアのパラ競技団体へ競技用車いす等を寄贈し、競技環境の整備や交流の促進につなげている。

日本全国から不要となった競技用車いすや用具を回収・整備



現地チームの練習環境・用具状況を調査し、日本との連携による練習法の共有やパラスポーツ用具提供の可能性を検討。



<主な連携先>

カンボジアパラリンピック委員会
カンボジア車いすバスケットボール連盟
埼玉ライオンズ(日本の車いすバスケットボールチーム)
日本国内の各パラスポーツ団体等

<汎用性>

使用頻度の低くなったパラスポーツ用具を回収・再整備して再活用する仕組みは、競技団体や企業、自治体などと連携することで他地域でも展開可能である。また、練習メニューなどのノウハウを共有することで、競技普及や交流促進につながる取組として幅広い展開が期待される。

団体名

一般社団法人アンリミテッド事業推進協会

所在地

大阪府大阪市

取組事例名

アンリミテッドスポーツフェスティバル開催



<取組内容>

障害の有無を理由に分け隔てない、インクルーシブなスポーツ&イベントを実施

■アンリミテッドスポーツフェスティバル開催

障害の有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、より多様性融合であり、超包括的(スーパーインクルーシブ)な、同じルールでスポーツを楽しむことをコンセプトとした「アンリミテッドスポーツフェスティバル」を開催。子どもからシニアまで、より多くの方々に愛されるスポーツイベントを展開。

- ・ パラスポーツ団体と連携し、車いすスポーツや視覚障害者スポーツなどのデモンストレーションや体験会を実施し、来場者が実際に競技を体験できる機会を提供している。
- ・ 民間企業と連携し、eスポーツやデジタル技術を活用した競技環境を整備することで、障害の有無にかかわらず多様な人々が参加できる新しいスポーツ体験を実現している。
- ・ 自治体の広報支援やボランティア参加などにより地域ぐるみのイベント運営を行い、スポーツを通じた共生社会の理解促進につなげている。
- ・ 2025年は大阪・関西万博会場など2会場で開催し、文化・芸術・スポーツを融合したイベントとして延べ8,300人が参加した。



アンリミテッドスポーツ
フェスティバル
Unlimited Sports Festival



<主な連携先>

一般社団法人日本パラ陸上競技連盟
近畿パラ陸上競技協会、大阪ボッチャ協会
一般社団法人日本障がい者eスポーツ協会
一般社団法人大阪障がい者eスポーツ協会
公益財団法人大阪陸上競技協会、一般社団法人日本モルック協会 等

<汎用性>

パラスポーツ団体、企業、自治体が役割分担しながら連携することで、障害の有無、年齢、性別、国籍等にかかわらず多様な人々が参加できる共生型スポーツイベントとして他地域でも展開可能である。既存の地域資源や企業の技術協力などを活用することで、継続的な地域イベントとして発展させることが期待される。

団体名 **徳島県パラスポーツ協会** 所在地 **徳島県徳島市**

取組事例名 **①パラスポーツ推進プロジェクト(特別な支援を必要とする児童・生徒の体育的活動への人材派遣)**
②とくしまパラスポーツフェスティバル

<取組内容>

パラスポーツ人口の増加に向けた、特別支援学級への指導者派遣や、パラスポーツフェスティバルの開催

■特別な支援を必要とする児童・生徒の体育的活動への人材派遣(取組事例①)

県内の特別支援学級等にトレーナーなどの専門人材を派遣し、児童・生徒がスポーツに親しむ機会を創出するとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくりの推進。

- ・ 県内の特別支援学級に専門人材を派遣し、児童・生徒が身体を動かす機会を増やすことで、スポーツへの関心や身体活動の向上につなげている。
- ・ 専門的な指導により、児童・生徒が自分の身体の使い方を理解しながら効率的に体を動かすことを学び、スポーツを身近に感じられる環境づくりを行っている。
- ・ 自治体や地域団体と連携し、障害のある子どもたちが継続的にスポーツに参加できる機会の提供を進めている。

■とくしまパラスポーツフェスティバル(取組事例②)

「とくしまパラスポーツフェスティバル」を開催し、パラスポーツの普及と共生社会への理解促進。

- ・ 障害のある人だけでなく地域住民や高校生ボランティアなどが参加し、パラスポーツの体験を通じた交流の場を創出している。
- ・ 車いすテニスなどの競技体験を通じて、誰もがスポーツを楽しめるインクルーシブなスポーツ環境づくりを推進している。



<主な連携先>

- <取組事例①> 徳島県ボッチャ協会、徳島県、徳島県教育委員会、
 徳島県理学療法士会、徳島県作業療法士会、徳島県トレーナー協会
 <取組事例②> 徳島車いすテニスクラブ、徳島県、
 徳島県障害者スポーツ指導者協議会

<汎用性>

学校や地域イベントにおいて専門人材の派遣やパラスポーツ体験会を実施することで、障害の有無にかかわらず多様な人がスポーツに親しむ機会を創出する取組として他地域でも展開可能である。